内定者の声

平成 30 年度　環境省総合職事務系内定者

【注意】
本冊子の記載事項は、内定者の私見に基づくものであり、
環境省の意向を反映したものではありません。

環境×〇〇

さあ、次は何を掛け合わせよう…？

可能性は、無限大。

Table of Contents

はじめに

1. 内定者プロフィール……1

今年の環境省内定者の人となりを紹介します。

⑴ 内定者統計……2

⑵ 各内定者情報

R.U（東京大学）……3

T.K（東京外国語大学大学院）……5

T.T（東京大学公共政策大学院）……7

M.H（早稲田大学大学院）……9

A.H（早稲田大学大学院）……11

T.M（慶應義塾大学）……13

Y.M（一橋大学公共政策大学院）……15

2. 試験対策、官庁訪問……17

内定者の試験・官庁訪問対策を網羅しました。

総合職試験概略……18

R.U（東京大学）……19&33

T.K（東京外国語大学大学院）……21&35

T.T（東京大学公共政策大学院）……23&37

M.H（早稲田大学大学院）……25&39

A.H（早稲田大学大学院）……27&41

T.M（慶應義塾大学）……29&43

Y.M（一橋大学公共政策大学院）……31&45

章末コラム―環境省官庁訪問のある１日……47

3. Special Talk……49

内定者の声編集メンバーが官庁訪問に関わるウワサについて対談します。

おわりに

はじめに
―これから環境省を目指すあなたへ―

この度は、環境省平成30年度事務系内定者の声を手にとっていただき本当にありがとうございます。私たちは平成30年度環境省の内定者です。

本冊子は、内定者から見た環境省の姿を伝えたく、内定者7名が協力して作成したものです。来年度以降環境省の受験を考えている方、環境省に関心を抱いている方、そして環境省のことに全く興味はなかったけれどたまたま手に取った方に、環境省のことを少しでも伝えたいと思っています。そして、私たちの思いを届けたいと考えています。

本冊子の編集にあたり、就職活動を振り返ると、環境省では一体どういう人が働いているのだろう、どういう人が目指しているのだろう、と不安な気持ちに直面していたことを思い出しました。そして、官庁訪問での噂など様々な情報に惑わされてもいました。だからこそ、私たちが感じたこと、経験したことを「ありのまま」にお届けし、そのような疑問の解決に少しでも貢献できればと考えています。

また、本冊子のコンセプトとして「環境×○○」を掲げています。環境というのは他の分野と関わりの少ない、閉ざされたものだという印象があるかもしれません。私たち自身も環境行政について深く知るまではそのような印象がありました。ですが、実際は国際関係・経済・地方創生・街づくりなどと密接に関わりあっています。「環境×○○」という言葉が表すように、環境と様々な分野を掛け合わせることにより、社会・地域・世界を変えることができると考えています。「環境×○○」という考え方を頭の隅に置いて本冊子を読んでいただけると、新たな発見があるかもしれません。

最後に、就職活動を前に様々なことを考える時期だと思いますが、本冊子が皆様にとって有意義なものとなるよう祈っています。また、これをきっかけに環境省にさらに興味を抱き、魅力を感じていただけると幸いです。そして、より詳しく環境省について知りたい方は是非、説明会等に足を運んでいただければと思います。

平成30年度環境省総合職事務系内定者一同

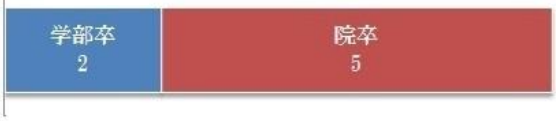
1.内定者プロフィール

今年の内定者は
どんな人?

内定者統計

男女比

学歴



試験区分

席次

説明会参加回数

第１クール訪問省庁

青：環境省、赤：他省庁

＜総評＞

今年の環境省総合職事務系の内定者は７名です。そのうち５名が男性、２名が女性です。昨年度は６名中２名、一昨年度は６名中３名だったので、女性の割合は概ね例年通りと言えるでしょう。

グラフにある通り、今年は院卒が５名、学部卒が２名となっています。昨年度は６名中３名、一昨年度は６名中２名が院卒だったので、今年は院卒の割合が多いようです。なお、院卒者のうち２名が法科大学院出身かつ既卒の状態で国家公務員試験を受験し、内定を得ています。

内定者の受験区分ですが、７名中５名が大卒区分で受験しています。その内訳はグラフにある通りです。残り２名は院卒行政区分で受験しています。このように内定者の受験区分はばらばらで、どの区分が有利ということはないようです。むしろ自分が大学で何を学び、そこで身につけた能力を環境省でどう生かせるか、ということを語れることが重要だと思います。

試験順位は、区分ごとに合格者数は異なりますが 50～100 位の人が多いようです。なお、環境省の訪問者カードには順位を書く欄がなく、聞かれることもありませんでした。

説明会参加回数は 2～5 回の人が多いです。民間企業就活との兼ね合いや開催日時の都合により、参加回数が制限されてしまった内定者もいましたが、多くの内定者が複数回説明会に参加していました。

今年の内定者の多くは各タームの１日目に環境省を訪問しています。しかし２日目、３日目に訪問した人からも内定者は出ているので、１日目に来なければ内定をもらえないということはないと思います。

以上の内容は特に Special Talk で詳しく語られているので、ぜひご覧ください。

環境×経済=環境資源の持続可能な活用

R.U

大学時代を振り返って

大学受験で二浪を経て今の大学へ。地方(熊本)出身のため帰省では大変な思いをしたことがあります。中学時代の経験からテニスのサークルへ所属し、勉学に励みながらサークル活動に没頭していました。大学時代で最も力を入れたのはサークルですね。アルバイトでは個別塾講師を勤め、親の仕送りと合わせて生計を立てていました。趣味は料理や漫画。振り返ると平凡な大学生だったのかなと思います。

人生で大切にしていること

「為せば成る」
人生のテーマ等訊かれたときにこう答えるようにしています。私の大学受験時の経験がこの言葉に大きく関わっていますね。一つ目標を立ててそれに向かって尽力する。たとえ時間がかかっても決して諦めてはいけない、そんな言葉です。

国家公務員・環境省の志望動機

もともと環境事業に関わる仕事がしたいと考えていました。それを軸に民間企業を受けていましたが、小規模にしか展開していない企業が多く、環境事業に専念して取り組むには、やはり環境省が最適だろうと考え志望しました。

R.U 君はこんな人

・ノリに流されない批判的な目を持っている。来世は猫になる。好き過ぎて既になりかけている。
・悟り開いてそう。ミスター悟り世代

名前： R.U
出身地： 熊本県
大学： 東京大学農学部
特技： テニス
好きな旅行先： 国内ならどこでも
好きな生き物： 猫
尊敬する人： 母

説明会参加回数：0 回

環境に興味を持ったきっかけ

小学生の頃に水俣病を学んだことが大きなきっかけだったと思います。出身が熊本ということもあり、学校全体で水俣病を学ぶ機会があったのですが、そこで公害の恐ろしさや悲しさを知り、将来は環境に関する仕事がしたいとぼんやり(当時)思うようになりました。その後、中学高校大学にて様々な知識を蓄えるにつれ、物事を多角的な視野から考えるようになり、それを環境事業に活かしたいと考えました。

環境×○○

環境×経済=環境資源の持続可能な活用
経済の中でも農業経済について大学で専門に勉強してきました。
その名の通り農業に関する経済という分野ですが、これを環境に当てはめることが可能で、環境という財をいかに生産・消費していくかが重要になると考えています。
エネルギーの再生産が重視される現在の環境問題に、大学で得た知識を効率的に活かしていきたいです。

環境省の印象（官庁訪問前→官庁訪問後）

私は運の悪いことに、環境省の説明会に学校の授業などが重なってしまい、一度も説明会に参加できませんでした。そのため官庁訪問前の環境省に対する印象やイメージは特にありませんでした(強いて言うならイメージカラーが“緑”…くらい？)。官庁訪問後は、働いている人が皆“優しい”という印象と、“穏やかな”職場という印象を受けました。それと、民間企業と比較してみると“体育会系の人が少ない”感じもありました。

夢

仕事をしていく上での夢としては、「人間だけでなくその他の様々な生き物も幸福を感じられるような世の中にしていくこと」ですね。抽象的で大きな夢だとは自覚していますが、実現できるかどうかは別に、可能な限り尽力したいです！夢は大きく（笑）
生活面での夢、というより目標は、「穏やかにのんびりとやりたいことをやる」になります。仕事面の夢とは打って変わって小さなものですが、私は小さなことにも幸福を感じられるので、これでいいんです！

環境×地方創生=Think Globally, Act Locally

T.K

大学時代を振り返って

―図書館の住人―

初対面の人から「知っています、知っています!図書館でよく見かけます」と言われるほど、大学図書館で多くの時間を過ごしました笑。図書館で何をしているかというと、学部時代から継続している平和構築の研究です。ソマリア沖の海賊からイラクのクルド人自治区の平和構築まで世界中の紛争解決に思いを馳せた学生生活です!

人生で大切にしていること

―天は自ら助くる者を助く―サミュエル・スマイルズ

いい言葉ですね笑。大学という自由に時間を投資できる環境の中で、このスマイルズの価値観に深く共感しました!

国家公務員・環境省の志望動機

城山三郎さんや山崎豊子さんの小説に登場するような、広く社会の事象に思考を巡らせて、日本が抱える課題の解決を目指す国家公務員に憧れたことがきっかけです。

その中でも、環境省という選択をしたのは、環境政策だけでなく、経済、福祉といった日本社会のどの分野に課題が発生しても、その解決に貢献する政策を立案できる可能性を感じたからです。加えて、国家公務員は日本の未来を形作る職業であり、その点で環境省は、「温室効果ガス 2050年80%削減のためのビジョン」のようにどの省庁よりも未来の形を意識した省庁であると考えたので、志望しました。

T.K君はこんな人

・陽気でかつ頼もしいリーダータイプ。飲むと頭のねじが1本外れるのが面白い

名前： T.K
出身地： 静岡県
大学： 東京外国語大学外国語学部、東京外国語大学大学院総合国際学研究科
特技： タイ語
好きな旅行先： バンコク、山陰地方
好きな生き物： ハリネズミ
尊敬する人： 木戸孝允

説明会参加回数：2回

環境に興味を持ったきっかけ

子供の頃からアウトドア好きの父に連れられて、自然の中で遊んできた事が環境に興味関心を持ったきっかけです。私の見た目とギャップがあって驚かれますが(笑)、キノコ採り、山菜採りが大好きです!この遊びを通じて、日本の豊かな自然環境の中で美しく生きる動植物と出会い、日本人と彼らとの繋がりをこれからも大切にし、未来の日本人がその豊かさを享受できるような社会創りに貢献したいと考えるようになりました。

環境×○○

環境×地方創生=Think Globally, Act Locally

私自身が地方出身ということもあり、日本の地方の活性化に貢献していきたいですね。具体的には、地方における再生可能エネルギー事業のように、地域課題を再エネ事業を通じて解決し、エネルギーの地方分権を進め、これを足掛かりに地域で考え、地域主導で課題解決を目指せる体制づくりに貢献したいと考えています。最終的に明治維新のように日本の地方から先見的なアイデアが生まれてくるような社会を実現して、日本社会の課題解決に誰もが参画でき、この貢献から社会との心の繋がりを実感できる未来を創りたいです。

環境省の印象（官庁訪問前→官庁訪問後）

官庁訪問を経た環境省の印象は、「柔能く剛を制す」ですね!訪問前、職員さんは環境を第一に掲げて政策実現を図っていると思っていました。しかし、実際にお話を聞いてみると他省庁、民間企業等、様々なアクターと柔軟に調整しながら、理想解（環境保全に主眼を置いた政策）から現実解（他の目標を掲げる政策に環境保護のコンセプトを織り込む政策）を実現して、トータルで環境保全を実現していることが分かりました。

夢

「環境に良いことはコストがかかる。営利企業である限り、収益を優先せざるを得ない。」並行していた民間企業の就職活動でよく耳にした言葉ですが、この常識を非常識にすることが私の夢です!ESG 指標や SDGs 等、パラダイムシフトを起こす道具はそろってきています。「環境に悪いことはコストがかかる、収益を上げるためには環境配慮型のビジネスをする必要がある」という言葉が聞けるまで、全力で頑張ります!

環境×安全保障＝世代を越えた安全

T.T

大学時代を振り返って

アメリカ留学中、街の知る人ぞ知る、というような音楽バーにギターを片手に単身のりこんで、セッションライブに参加しました。日本でもセッションをやったことがなく、当然うまく弾くことなどできませんでしたが、本場の人たちと一緒に演奏できて、「また来なよ」と言われていい経験ができました。

人生で大切にしていること

巧言令色鮮し仁

国家公務員・環境省の志望動機

小学生のころ、『三国志』に熱中して、自分が生まれ育った国を世代を越えて守っていこうという諸葛孔明をはじめとする登場人物の生き方にあこがれを抱きました。加えて、父親の仕事が将来世代で価値を生み出すというものであり、将来世代に価値を残す生き方をしたいを思うようになりました。また、小学校のころにアメリカのインディアナ州という日本人がほとんどいないところの現地校に通っていたことで、「自分は日本人だ」という意識を強く持つようになり、日本の価値を将来世代に伝えたいと思うようになったことが、国家公務員を目指すようになった原体験です。日本の美しい自然は、将来世代にわたって守るべき日本の大切な価値であると考え、環境を仕事の軸にしようとおもいました。

T.T 君はこんな人

・謎めいていて底知れぬポテンシャルを感じる。フレンドリーで優しいので安心する。

名前：T.T
出身地：東京都
大学：慶應義塾大学法学部
　　東京大学公共政策大学院
特技：ギター
好きな旅行先：ヨセミテ
好きな生き物：小鳥
尊敬する人：諸葛孔明

説明会参加回数：2 回

環境に興味を持ったきっかけ

「環境」自体に興味を持ったのは小学生のころ、新聞係で「愛・地球博」について書いていた時です。大学 3 年のころ、自転車で四国 1 週旅行をして、四万十川を走ったことが直接の契機です。

環境×○○

「環境×安全保障＝世代を越えた安全」
安全保障は、国際関係において国家の主権を防衛するというのが基本ですが、地球温暖化・気候変動・エネルギーなどの環境問題は国際関係・国家安全保障に関わる問題となりつつあります。地球温暖化や気候変動は一国だけで解決できる問題ではない上に、太平洋島嶼国が海抜上昇で国土消滅の危機にあることなど、国家・国民の安全を脅かす問題となっています。こういった問題の解決に、私は環境省職員として職業人生を通じて取り組みたいと思っています。気候変動・地球温暖化問題に対しては、パリ協定での CO2 削減目標をわが国がしっかりと達成できるよう、民間と協力して低炭素社会作りを推進していきたいと思っています。同時に、諸外国での低炭素社会作りを政策的に支援し、地球規模での CO2 削減に貢献したいと思います。また、エネルギーの安定的かつ持続可能な供給のため、再生可能エネルギーの技術開発や普及に貢献したいと思っています。

環境省の印象（官庁訪問前→官庁訪問後）

志高く、責任感の強い方が多い省庁だという印象を受けました。「地球温暖化問題の解決に生涯をかけていい」、「（福島の廃棄物処理という）他がやらないがやらなくてはいけないことを、国の組織としてやるのが環境省だ」と言った言葉を聞いて、「強い意志を持った方々と働きたい」と思うようになりました。

夢

環境省職員として：可逆的な社会を作る
人生として：背中で語る男になる

環境×ビジネス=エコフレンドリーな経済

M.H

大学時代を振り返って

大学時代は法律相談部とバレーボールサークルに所属し、ゼミは刑法と国際私法ゼミに所属していました。特に国際私法ゼミでは海外で開催される国際弁論大会に出場するため、書面作成と弁論練習で連日遅くまでゼミ室にこもって作業していたのが一番の思い出です。海外で英語で弁論できることなんてもうない！と思って挑戦しましたが、環境省で働く中でまたそんな機会をもらえたらいいなぁと思ったりしています。

人生で大切にしていること

何事も相手の立場に立って考える事を大切にしています。物事の判断が独りよがりにならないように、人の言動の根本にある考え方が理解できるように、気をつけたいためです。

国家公務員・環境省の志望動機

人の役に立ちたいという想いから法科大学院へ進学し法曹を目指していましたが、たまたま友人の誘いで説明会に参加したのをきっかけに国家公務員のお仕事に興味を持ちました。国家公務員のお仕事は、人が困難な状況に陥る前に国の制度ごと変えてしまうという強い影響力があるため、法曹の仕事とはまた違ったダイナミックさと面白さを感じました。このお仕事ならば生涯やりがいを感じられるだろうと思い、志望しました。

M.H さんはこんな人

・仕事ができて熱意があって、とっても綺麗なお姉さん

・明るい方で元気をよくいただく。飲むと頭のねじが2、3本外れるのが面白い。

名前：M.H
出身地：千葉県
大学：神戸大学法学部
　　早稲田大学大学院法務研究科
特技：料理、釣り、スポーツ
好きな旅行先：沖縄
好きな生き物：馬
尊敬する人：イチロー

説明会参加回数：5 回

環境に興味を持ったきっかけ

幼い頃、夏休みになれば必ず祖母の家がある三重県へ行き、山や川で色々な生き物を捕まえて遊びました。それがとても楽しく、毎年ずっとここで遊びたいと思ったことをきっかけに環境保護に興味を持ちました。また母から、再利用の難しそうなものを買わないよう教わったことも、環境に興味を持ったきっかけかもしれません。

環境×○○

環境×ビジネス=エコフレンドリーな経済

今まで環境と企業活動は、前者を守ろうとすれば後者が委縮し、逆に後者が活性化すれば前者へ悪影響を生じるという負の関係にありました。しかし近年、世界的に環境保護の機運が高まり、環境に優しい技術を採用する企業が増えた結果、環境ビジネス業界が成長する等、エコフレンドリーであることが企業活動の中で価値化しています。この流れが進めば、環境に優しい活動をすることが企業にとって利益となり、両者は互いに高め合う関係になれるのではないかと思っています。私は環境省の活動を通して、この流れの後押しがしたいです。

環境省の印象（官庁訪問前→官庁訪問後）

官庁訪問をするまでは、環境省のお仕事に限界を感じていました。気候変動に関する国際的枠組みには拘束力がなく、温暖化対策は努力するだけ無駄に思ってしまっていたためです。しかし官庁訪問でお会いした職員の方々は皆、夢のようなことを実現するために本気でお仕事をしておられ、勝手に限界を感じていた自分を恥じました。

夢

地球温暖化を止める！

環境×法律＝環境法のプロフェッショナル

A.H

大学時代を振り返って

少林寺拳法部に入部しましたが、1 年時は大会で予選落ち、2年時はその悔しさをバネに休みなく練習しましたが、結局部内選考に落ちて大会出場すらできませんでした。しんどさのあまり部を辞めそうになりましたが、尊敬する先輩やずっと一緒に頑張ってきた同期が支えてくれて、3 年時には想像以上の大会成績を残すことができました。表彰式でもらったメダルをさげて写真撮影するとき、支えてくれた先輩や同期が自分のことのように喜んでくれていて、多分死ぬまで忘れられない瞬間になりました。

人生で大切にしていること

およそ人間に関わることで、私に無縁なことは一つもない（梨木香歩さんの『村田エフェンディ滞土録』から引用）

国家公務員・環境省の志望動機

国家公務員については、法律を介して包括的・未然的に社会問題全般に関われる点が魅力的だと思いました。また、親が国家公務員として生活している姿をずっとみてきて、個人として生きながら、国や世界といった広く多様な概念について常に当事者意識をもって臨める点で、自分の人生を豊かにできる仕事だと感じました。環境省については、環境法が好きでそれにかかわる仕事がしたかった事、仕事の方向性が自分の価値観に合っている事、職員の方々に魅力を感じたこと、環境を介して様々な分野に関われること、が主な志望動機です。

A.H さんはこんな人

・一見大人しそうだがバリバリの体育会系。知的で周りに流されない。あと、喧嘩はしたくない

名前：A.H
出身地：神奈川県
大学：慶応義塾大学法学部法律学科
早稲田大学大学院法務研究科（法科大学院）
特技：ダーツ、大掃除のときの断捨離
好きな旅行先：京都（特に大原と宇治）、ベトナム
好きな生き物：カメ
尊敬する人：両親兄弟、倉本聰さん

説明会参加回数：3 回

環境に興味を持ったきっかけ

小学生のとき小笠原やボルネオ島でアカガメの産卵やマングローブをみたことが原体験です。現地の生態系とそこで暮らす人々の生活をみて、これが次の次の世代にもあってほしいと思いました。また、震災時に当時宿泊していた宿や自分の荷物を津波で流されるという経験をし、人の生活を一変させる自然の力の恐ろしさを肌で感じました。それ以降、環境や自然についてただ美しく豊かなものでなく、より生存の基盤として捉えるようになり、それに関わる仕事を具体的に考えるようになりました。

環境×○○

「環境×法律＝環境法のプロフェッショナル」

　環境法を学部とロースクールで勉強してみて、他の法律と比べて様々な対象にインセンティブを与える面が特に強いことや、社会の変化に対応してとても短いスパンで改正されていくのが面白いと思いました。今後より経済や社会と環境との統合が進むにつれ、あるいは進めるために、各法律や通知が意識すべき利害関係者や状況もより多様で複雑になるのではと思います（環境権の問題や、中間貯蔵施設と放射能に汚染された廃棄物の問題、戦略的アセスメントを検討する際に生じる事業者の負担等の問題、食品リサイクルに関する衛生面の責任の問題、太陽光パネル寿命後の処理等の問題、国立公園をより観光面等で広めていく上での所有者との権利の問題等）。現場に学びながら、変化の激しい社会に対応できるリーガルマインドを養っていきたいです。

環境省の印象（官庁訪問前→官庁訪問後）

官庁訪問前→環境について熱い思いをもっていそう。マイルドそう。
官庁訪問後→環境分野だけでなく、環境を介して色々な分野（経済、金融、福祉、地方自治など）にアプローチしていく柔軟性と、そのための知識量・知識幅が凄い。忙しいにも関わらず、私たち訪問者のことを気遣ってくださり、優しく意見や疑問を受け止めて、強い熱量で返してくださる方ばかりでした。

夢

聡明で、やさしい人

環境×経済＝新たな成長活力の創造

T.M

大学時代を振り返って

自分の人生には、コミュニケーション能力の欠如という大きな壁が常に立ちふさがっています。振り返ると、自分の大学時代の多くの時間はその壁の打破のためにかけられたように思います。具体的には、塾のチューターアルバイトでの生徒指導や、友人との様々な箇所への旅行を通じてコミュニケーション能力の向上を目指しました。

人生で大切にしていること

『情けは人の為ならず』という言葉を行動原理としています。人のために、人の幸せを願って努力し行動することは、短期的視野で見れば損をすることもあるかもしれないけど、長期的視野で見れば必ず自分の幸せとなって返ってくると信じています。

国家公務員・環境省の志望動機

国家公務員の志望理由としては、自分の『情けは人の為ならず』という行動原理に基づくと 、最も多くの人の幸せに寄与できる職業が国家公務員であると感じたからです。環境省の志望理由としては2つあります。1つは、原子力発電所設置の可否に関するレポートや被災地ボランティアの経験などを通じて自分が環境分野に強い興味を覚えたからです。もう1つは、所属している環境経済学を専攻するゼミナールの授業において、昭和53年規制などの『環境×経済』を両方とも向上させられる政策に魅力を感じ、自分もこのような政策に関わってみたいと感じたことを挙げます。

T.M 君はこんな人

・真面目で誠実なイメージ。嘘をつけない（表情にでる）タイプだと思います。部下から慕われる上司になる気がします。

名前：T.M
出身地：神奈川県
大学：慶應義塾大学経済学部
特技：そろばん
好きな旅行先：東南アジア
好きな生き物：亀
尊敬する人：高校時代のサッカー部の顧問の先生

説明会参加回数：2 回

環境に興味を持ったきっかけ

環境に興味を持ったきっかけとして2つ挙げます。1つは、原子力発電所設置の可否に関するレポートを書いた経験です。この経験により、環境という倫理観の絡みやすい分野においては、問題解決の方法として極端な結論に至りやすいことを感じました。それゆえ環境問題においては、正しい知識をもったうえで問題対応・人々の説得をしなければいけないことを感じ、そこに難しさと同時に楽しさを覚えました。
もう1つのきっかけである被災地ボランティアでも同じことを感じ、環境問題の解決が人々の幸せに大きく寄与していく喜びを感じることが出来ました。

環境×○○

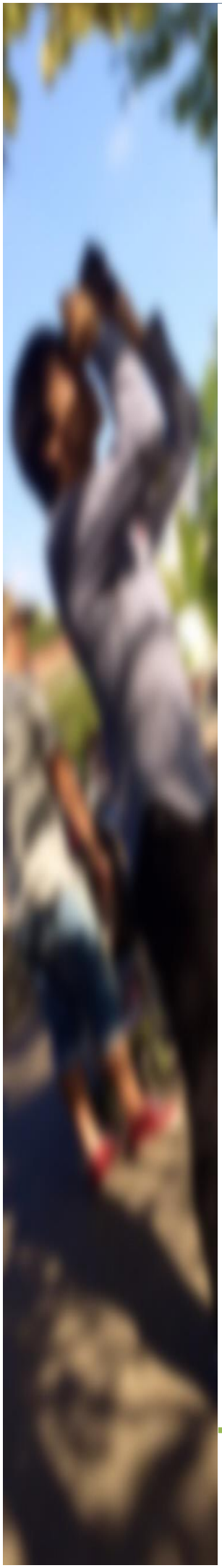
「環境×経済＝新たな成長活力」
環境省の志望動機としては、環境を改善しつつ同時に経済をよりよくする政策の可能性に魅力を感じたからです。例えば環境と経済を同時に向上させた 過去の政策として、昭和53年規制が挙げられます。この昭和53年規制により設けられた厳しい排ガス基準を達成するよう、日本自動車の環境性能が向上した結果、日本自動車の付加価値も 向上し、日本の主要な輸出産業として自動車産業が成長を遂げました。この昭和53年規制にまつわる話を、所属していた環境経済学を専門分野としているゼミナール内で学んだことが、自分もこのような政策に関わりたいと強く感じるきっかけとなりました。
また環境省の官庁訪問内でも、グリーンファンドなど『環境×経済』を同時に推し進める政策例をたくさん耳にし、環境省の志望をより 強めるきっかけとなりました。

環境省の印象（官庁訪問前→官庁訪問後）

自分の官庁訪問前の環境省の印象として、真面目で理想に燃えている人が多い印象でした。そして官庁訪問を通じて、その印象が実際にそうであることを強く感じました。それだけでなく、理想に燃えながらしっかり現実の経済状況もみており、環境の改善一辺倒ではなく、環境という分野を通して経済をいかに良くしていくか模索している職員の皆さんの思いを、官庁訪問を通じてより感じることが出来ました。

夢

自分の人生の使命として、環境という分野を通じて多くの人々の幸せに寄与することを掲げています。そのために、短期的目標として、中小企業診断士などの資格取得などにより、環境だけでなく、経済・経営のスペシャリストになることを目指しています。



環境×経済＝国際競争力

Y.M

大学時代を振り返って

結構色々なことをやっていました。サークルはビッグバンドサークルとテニスサークル、社会人サークルにお邪魔して卓球もしていました。バイトは飲食・家庭教師・コールセンターを。大学3年まではひたすら遊んでいて、4年からは勉強に力を入れていました。計量経済学・ファイナンスを専攻するゼミに所属していて、研究や院試に向けた勉強をしていました。大学院生活は1年のときに環境省を受けたので授業と官庁訪問くらいしか思い出がまだないです・・・

人生で大切にしていること

とりあえずなんでもやってみること。関係のないようなことでも実はそれが底の底では繋がっていていつか生きてくると考えています。だからこそ選り好みせず色々なことを知ろうとすることを大切にしています。

国家公務員・環境省の志望動機

社会に大きなインパクトを与えられる・次の世代に何か貢献することができる仕事をしたいと考えて志望しました。特に環境問題に取り組みたく、環境問題は長期的・国際的・分野横断的に取り組む必要があると感じ、国家公務員しかないと考えました。環境問題に必ず取り組むことができるのは環境省だ、というのも大きな志望動機です。環境省の若くても意見をどんどん言えそうな雰囲気・人柄に第一印象でビビッときたのもかなり大きな動機です。

Y.M君はこんな人

・人懐こいワンちゃんみたい。
・勉強家で仕事をスマートにこなせるような人。

名前：Y.M
出身地：大阪府
大学：上智大学経済学部経済学科
一橋大学国際公共政策大学院
特技：色々な楽器演奏できます。
好きな旅行先：新宿御苑
好きな生き物：ゴールデンレトリバー
最近はボーダーコリー
尊敬する人：イーロン・マスク

説明会参加回数：5回程度

環境に興味を持ったきっかけ

パリ協定だったり持続可能な社会だったり電気自動車だったりが世界的に注目されている状況を見て、これからは環境の時代が来るはずだと考えたのがきっかけです。ヨーロッパに旅行に行った時に酸性雨の被害を目の当たりにしたことや、大学での研究で環境への取り組みを推進させるのが難しいと感じたのもきっかけです。あと単純に自然が小さい頃から好きでした。

環境×○○

「環境×経済＝国際競争力」
環境保全と経済成長は相反するモノと印象しがちですが、両立することが可能ではないか、と考えています。経済成長を求めるため環境保全に目をつむったことから公害問題も過去生じていました。しかし、現在、気候変動対策は約束された市場と言われるように世界的に環境技術が注目されています。ヨーロッパやインドでは将来電気自動車しか販売しない、という目標も掲げられています。このように、これからの社会ではクリーンな社会・製品を作らないと製品を販売することができず、国際的に勝負できないのではと考えています。環境が日本の付加価値の一つとなり環境と経済の両立が達成できるようにしていきたいです。

環境省の印象（官庁訪問前→官庁訪問後）

官庁訪問前：・環境に対する熱い想いを持ちながら冷静さもある
・みなさんいい人そう！
官庁訪問後：・やっぱり環境に対して熱かった！
・すごい風通し良さそうな雰囲気
・環境省選んでよかった！

夢

ゴールデンレトリバーのいる幸せな家庭を持つこと。
直近の野望はゴルフでスコア100を切る
（まだゴルフクラブ握ったこともないです・・・）

2.試験対策、官庁訪問

私達の経験の
全てをお伝え

総合職試験（院卒者・大卒程度）

採用までの流れ（平成 29 年度）

人事院「国家公務員 Navi」を参考に作成
http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sougou/saiyo_sougou02.htm

H29 年 2/1	受験案内を HP に掲載
H29 年 3/31	インターネットによる受験申込開始
H29 年 4/30	第 1 次試験
H29 年 5/12	第 1 次試験合格発表
H29 年 5/28	第 2 次試験（筆記）
H29 年 5/30～6/16	第 2 次試験（政策課題討議・人物試験）
H29 年 6/30	最終合格発表
H29 年 7/5	官庁訪問
H29 年 10/1	採用内定
H30 年 4/1	採用

試験について

国家公務員総合職試験では、択一式の第 1 次試験（教養科目と専門科目）と論述式の第 2 次試験（専門科目の論述と政策論文）があります。時期としては、上記表の通り、春先の 4 月末から第 1 次試験が始まり、最終発表の 6 月までの2ヵ月ほど続きます。

官庁訪問について

官庁訪問は、入省を希望する省庁に訪問し、そこで面接を受け、内々定を得るためのプロセスです。試験の合格＝採用ではありません。各省庁での面接などを受ける必要がありますので、7月上旬から志望する省庁を積極的に訪問しましょう。

6月	7月																				
30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
最終合格発表					訪問開始日	第1クール					第2クール			第3クール				第4クール	第5クール 内定解禁		

R.U の試験・人事院面接対策

試験区分: 大卒程度経済区分
所属する大学・大学院の専攻と区分との関連性の有無: 有
席次: 190～200 位

1. 筆記試験

大学の授業の都合もあり、勉強を開始する時期がかなり遅れていたと思います。また、民間企業も受けることを決めていたため、勉強時間を確保することが困難でした。下表に平均 3 時間勉強したと書きましたが、たぶんもっと短かったはずです。一日の平均勉強時間は 30 分もなかったと思います(汗)
予備校に通ったりはせず、全て独学で勉強を進めていました。

1-A 一次試験対策

時期 / 科目	教養科目	専門科目
対策開始 3 月頃 平均 勉強時間 2 時間	３月後半に勉強開始。 過去問から勉強を始め、苦手分野に集中して勉強を行った。特に社会科目については参考書・問題集を購入した。	３月初頭に勉強開始。 大学の授業で修めていた科目もあったため、勉強は苦手分野に集中して行った。
日頃の対策 平均 勉強時間 3 時間	苦手分野については参考書と問題集を使用して勉強。 また、マーク形式の試験に慣らすために過去問を使用。 時間が不足することが目に見えたため時間対策も行った。	基本的には大学で使用するような教科書を用いての勉強、たまに友人や教授に助言を求めたりもした。 時間には余裕を持てることが過去問でわかったため、確実に取れる問題を解く戦略で挑んだ。
直前期 平均 勉強時間 3 時間	日ごろの対策と同じ勉強。 本番では時間との勝負となると思い、解く順番を決めたりしていた。	日ごろの対策と同じ勉強。 この時、確実に解ける問題数に不安があり、多少焦りを感じていた。

1-B 二次試験対策

時期 / 科目	専門科目	政策論文
対策開始 ５月頃 平均 勉強時間 １時間	問題内容が一次試験の専門科目と重なる部分もあるため、その意味では３月初頭勉強開始かも… 基本的な勉強内容は一次と同様で、参考書と問題集、教科書を使用した。	過去問を見ても、分量、解答方針がわからなかったため、教授に相談。いろいろご教授いただくとともに、過去問の添削までしてもらうことに。今思えばかなり贅沢な対策であった。
日頃の対策 平均 勉強時間 ２時間	問題集などでわからないことがあれば友人や教授の手を借りていた。また、過去問を用いて実際に解答を作ってみることも。解答する分量などに気を付けていた。	過去問から傾向や問題内容を予測することが困難だと判断できたため、過去問は一問だけに留め、教授の助言を頭に入れておくことを対策とした。
直前期 平均 勉強時間 ３時間	勉強内容は変わらず。 本番は時間に余裕が持てると分かっていたため、落ち着いて問題に挑もうなどと考えていた。	勉強内容は変わらず。 毎年一風変わった問題が出されていたため、どんな問題が出るんだろうかと少し楽しみにしていた節がある。

2. 人事院面接

会場: 埼玉　　面接官の構成: ３人

人事院面接に向けた準備

面接に関して準備したことは特にありません。
面接前日にＥＳの内容や、考えられる質問に対してどう答えるかなどについてシミュレーションするに留めていました。
ただ、民間企業も受けていたため、その分面接に慣れていたかもしれません。
どういう形でも面接に慣れておくという意味では、民間企業も受けておくべきだと思います。

当日の面接の雰囲気

ひどく緊張しました。面接には慣れていると思っていましたが、それでも緊張してしまいました。しかし面接官が優しく接してくれたことと、主な質問内容がＥＳに書いたことであったため、徐々に冷静さを取り戻し上手く対応することができました。
ＥＳ以外の質問もありましたが、性格を判断する内容だったと思います。
控室で待たされる時間が長かった印象があります。

T.K の試験・人事院面接対策

試験区分:　大卒程度法律区分
所属する大学・大学院の専攻と区分との関連性の有無: 無
席次: 60～70 位

1. 筆記試験

基本的に大学の就職支援課が公務員予備校と提携して提供していた教材を基に試験対策をしていました。合格した年度は、既に二度目の受験だったので、前年度に不合格となった二次試験対策を中心に据えていました。

予備校は、上記の学内講座で対策が困難であった二次試験対策講座と模試を受験するために利用していました。

1-A 一次試験対策

時期 / 科目	教養科目	専門科目
対策開始 1 月頃 平均 勉強時間 1 時間	**数的処理・判断推理：**苦手意識があったので、専門科目の勉強を始める前に、ゆっくり 1 時間をかけて対策をしていました。 **他の科目：**新聞の購読を通じて、時事対策をしていました。	二次試験対策を重点的にしていたので、特に対策をしていません。
日頃の対策 平均 勉強時間 2 時間	**数的処理・判断推理：**上述の対策を継続していました。 **時事：**新聞購読 **他の科目：**高校時代の大学受験予備校のテキストを熟読し、記憶の整理をしていました。	二次試験対策を重点的にしていたので、特に対策をしていません。
直前期 平均 勉強時間 6 時間	**数的処理・判断推理：**上述の対策を継続していました。 **時事：**新聞購読 **他の科目：**高校時代の大学受験予備校のテキストを熟読し、記憶の整理をしていました。	直前期に入ってからは、多岐選択式の問題集をやりこむことで、二次試験の知識が多岐選択式の試験ではどのように出題されるか、確認をしました。

1-B 二次試験対策

時期 / 科目	専門科目	政策論文
対策開始 1 月頃 平均 勉強時間 5 時間	**憲法**：予備校のテキストに記載されていた論証例（例：表現の自由の定義を説明するような定型文）をひたすら暗記していました。 **民法**：憲法の対策と同じ。 **行政法**： 憲法の対策と同じ。	特に対策は行いませんでした。
日頃の対策 平均 勉強時間 4 時間	**憲法**：論証例の暗記を行いつつ、予備校の二次試験対策講座でアウトプットを行いました。 **民法**：憲法の対策と同じ。 **行政法**：憲法の対策と同じ。	特に対策は行いませんでした。
直前期 平均 勉強時間 7 時間	**憲法・民法・行政法**：直前期には、過去問や想定問題集を数多くこなし、実際の試験時間で論理的で分かりやすい答案を書く練習に時間を費やしました。	模試で政策論文の問題を解き、本番での時間配分、論の構成の仕方を確認しました。

2. 人事院面接

会場: 埼玉　　面接官の構成: 3 人

人事院面接に向けた準備

面接対策は、同時期に行っていた民間企業の面接で自分自身を説明する練習をしていました。また、友人に志望動機や自己 PR 等の基本項目について話し、考えを整理していました。特に民間企業での就活は、適度な緊張感を持ちつつ、聞かれた質問に対して、質問の意図を捉え、自分の考えをまとめ、相手がわかりやすいように伝える良い訓練になるので、民間企業も進路に考えている人は、公務員就活と併せて、民間就活にもぜひ挑戦してみてください。

当日の面接の雰囲気

面接は面接官 3 名で進行し、中央の面接官が左右の面接官に話を振っていくスタイルでした。聞かれた内容は、自己紹介、ゼミで行ったワークショップの話と時事問題についてでした。特にワークショップの話は、集団における自分の立ち位置に関する質問だと思ったので、自分自身の役割とどのように組織に貢献できるかを具体的なエピソードも含めて回答しました。

T.T の試験・人事院面接対策

試験区分: 大卒程度政治国際区分
所属する大学・大学院の専攻と区分との関連性の有無: 有
席次: 20～30 位

1. 筆記試験
前年 9 月ころ。
対策開始期は 1 日 3 時間程度。直前期は 5-8 時間程度。

1-A 一次試験対策

時期 / 科目	教養科目	専門科目
対策開始 9 月頃 平均 勉強時間 1-2 時間	9 月頃（もう少し前から触っていた）	9 月頃
日頃の対策 平均 勉強時間 2-3 時間	市販の教材を 1 日数問解いていました。数的推理を中心にやっていました。知識系は触れていませんでした。	国際関係、国際法、憲法、政治学、行政法などの教科書を読んで基礎をインプットしていました。択一では国際関係、政治学、憲法、行政法、行政学、国際法、経済、財政学、国際事情を使うことに決め、市販の問題集、過去問を解いていました。
直前期 平均 勉強時間 8-10 時間	3 月 勉強時間：2-3 時間 4-6 月 勉強時間：3-4 時間	3 月 勉強時間：4-5 時間 4-6 月 勉強時間：5-6 時間

1-B 二次試験対策

時期 / 科目	専門科目	政策論文
対策開始 9 月頃 平均 勉強時間 3 時間	前年 9 月頃から対策していました。大学院入試で国際政治と国際法を使ったこと、専攻が国際政治（安全保障）であったため、ゼロからのスタートではなかったです。	1 次試験終了後の 5 月から対策していました。正直遅いと思います。
日頃の対策 平均 勉強時間 4 時間	国際関係、国際法、憲法、政治学の教科書を読み、それぞれの論点についてインプットしていました。それぞれ複数の教科書を使っていました。	市販の対策本を読み、政策分野・ツールについてインプットしていました。
直前期 平均 勉強時間 5-6 時間	友人作の予想問題を解き、論点について議論をしていました。同時に、過去問も解いていました。序論、本論、結論ごとに何を書くかリストアップする、という形で過去問を消化していました。	予想問題を考え友人と議論し、過去問を使って対策していました。 政策論文は恥ずかしながらあまり良い出来ではなかったです。過去問を書いたら、誰かに添削してもらうことが必要であったと思います。

2. 人事院面接

会場: 東京　　面接官の構成: 3 人

人事院面接に向けた準備

友達と模擬面接をした。

人事院面接の雰囲気に慣れていなかった。

当日の面接の雰囲気

志望動機、学生時代頑張ったことなど、面接カードに基づいた質問でした。

会話を楽しむことを心がけるといいと思います。距離が遠いので、なるべく大きい声で話す練習をするといいと思います。

M.H の試験・人事院面接・政策討論対策

試験区分: 院卒程度行政区分
所属する大学・大学院の専攻と区分との関連性の有無: 有
席次: 100～110 位
1. 筆記試験
司法試験の勉強をしていたため、国家公務員試験のための特別な勉強はしませんでした。自分が受験した年は司法試験の約 1 週間後に一次試験があったため、どんな問題がでるか過去問をみる程度でした。ダブルスクールはしていません。

1-A 一次試験

時期 / 科目	教養科目	専門科目
対策開始 平均 勉強時間	試験 1 週間前のみ	約 1 年前から
日頃の対策 平均 勉強時間 3 時間	していません	司法試験短答式試験の勉強 1 日 3 時間
直前期 平均 勉強時間 8 時間	過去問を見る 5 時間	行政法の過去問を見るのみ 3 時間

1-B 二次試験

時期 / 科目	専門科目
対策開始 平均 勉強時間 0 時間	司法試験の勉強と兼ねていたため、国家公務員試験のための勉強はしませんでした。大学院での毎日の勉強が試験対策のようなものでした。
日頃の対策 平均 勉強時間 0 時間	上に同じ
直前期 平均 勉強時間 5 時間	司法試験のために作ったノートを復習しました

2. 人事院面接
会場: 東京　　面接官の構成:　3 人

人事院面接に向けた準備
面接カードに記入した内容を言葉で伝える練習をしてから、友人に模擬面接をしてもらいました。記入事項への質問に加え、ネットに上がっている想定質問をいくつか挟み、やや圧迫気味でお願いしました。特に法科大学院生は、何をきっかけにいつから国家公務員に興味を持ったか等の質問が想定され、実際そうでした。頭ではわかっていても声に出して説明できないことも多いので、練習しておいてよかったです。

当日の面接の雰囲気
基本的には面接カードに沿って質問がされました。1 つの記入事項につき、書いたことそのままを答えさせる質問と、その答えに関連した質問が 1 つなされる形でした。圧迫はされませんでしたが、繰り返し「なぜ」と質問された人もいたようなので、ある程度深いところまで答えを用意しておくのが緊張を回避できて良いと思います。

3. 政策討論対策
会場:東京　　グループディスカッション参加者の構成:5 名
議題:感染症や紛争の危険が予測される特定地域への渡航を禁止してよいか
政策討論に向けた準備
政策討論で何をするかを知らなかったため、過去に受験した友人に聞き、政策討論の概要とその友人があたった議題を説明してもらい、本番のイメージをつけました。人事院面接と違い、政策討論では会話の流れを読んで臨機応変に発言をする必要があるため、逆に準備はしない方が良いと考え、特に何もしませんでした。おかげで本番は固くならず、よく発言できたと思います。

当日の討論の雰囲気
開始前に「一定のまとまりある議論ができるように」という趣旨の指示があったため、参加者はお互いの意見や理由付けの粗捜しをすることなく、良い案を褒めたり、なぜそう考えたのか質問したりしました。人の意見を素早く理解し、取り入れられる柔軟性をアピールしたいと思い、他の参加者の意見とどこまでが一致しているラインなのか明らかにして、参考になる要素を取り入れ、当初持っていた自分の意見を発展させて自分の最終結論にしました。

A.H の試験・人事院面接・政策討論対策

試験区分: 院卒程度行政区分
所属する大学・大学院の専攻と区分との関連性の有無: 有
席次: 100～110 位

1. 筆記試験

司法試験と併願していて、試験期間が同時期だったため、国家公務員試験の独自の対策はほとんどできませんでした。ダブルスクールもしていません。

1-A 一次試験

時期 / 科目	教養科目	専門科目
対策開始 平均勉強時間 0 時間	対策を行わなかった。	対策を行わなかった。
日頃の対策 平均 勉強時間 0 時間	対策を行わなかった。	司法試験にむけた短答対策（条文ごとに論点や判例・過去問をまとめたノートの反復）がそのまま対策になった。
直前期 平均 勉強時間 1 時間	時間をかければ解けそうな統計、長文、数的処理について先に解いて、残った時間で他の設問を解くという戦略を練った（割と効果的だった）。	行政法の過去問を見て、行政不服審査法と行政手続法の知識を確認した。

1-B 二次試験

時期 / 科目	専門科目
対策開始 5 月頃 平均勉強時間 1 時間	一週間前に過去問をチェックし、六法を見られないこと、解答用紙が少ないためあてはめを細かくできないことを確認。
日頃の対策 平均 勉強時間 0 時間	司法試験の論文対策（演習本・論証パターン・判例百選の反復）がそのまま対策になった。
直前期 平均 勉強時間 5 時間	典型論点の確認、よく出る条文番号の暗記、三段論法の確認を 3 日前から行った。

2. 人事院面接
会場: 埼玉　　**面接官の構成:　男性 3 人**

人事院面接に向けた準備
人事院面接経験者のブログを読み、本番の流れとよく聞かれる質問をチェックして、回答を準備しました。面接カードを記入する際、突っ込んでほしいところはあえて不完全に書き、深く聞かれた際の回答を用意しました。
⇒実際ほぼ予想通りの質問で、準備が役立ちました。

当日の面接の雰囲気
待合室は緊張した雰囲気でしたが、面接官の方は優しい雰囲気で、和やかに進みました。あなたはどういう人柄か、と最初に聞かれ、よく友人に言われる「正直」を答えました。その後は面接カードに書いた内容を詳しく聞く質問ばかりで、回答が矛盾しないよう正直に答えました。ロー卒ですが、法律のことは一切聞かれず、ゼミや部活についての質問がほとんどでした。

3. 政策討論対策
会場: 埼玉　　**グループディスカッション参加者の構成:　男性 4 名女性 2 名**
（ロー卒 4 人、院生 1 人、学部生 1 人）
議題: 週休 3 日制の促進の是非
政策討論に向けた準備
特に何もしていません。ただ、新聞やニュースの内容について、日ごろから親兄弟とよく議論していたので、それと同じような感じで臨みました。反省としては、最初のまとめレジュメを作る時間が短いので、作成スタンスを決めておけばよかったです。議論でどういう役割を担うかも考えておくべきでした。

当日の討論の雰囲気
あまりピリピリした雰囲気ではなく、話しやすい雰囲気でした。初めから問題文の誘導にみんな乗れていたので、同じ方向性で制限時間内にまとめようと結束していたと思います。私はまとめ方や具体案について発言する程度で終わってしまいましたが、他の人に発言を促したり、皆の意見を上手くまとめる役割をしていた人は特に評価されたのではと思います。

T.M の試験・人事院面接対策

試験区分:大卒程度経済区分
所属する大学・大学院の専攻と区分との関連性の有無: 有
席次: 140～150 位

1. 筆記試験
本格的に対策を開始したのは 9 月ごろです。筆記試験は、経済分野では主に大学の教科書、それ以外の分野では高校の参考書を用いました。
自分は都庁と神奈川県庁も受験をしましたが、国家公務員の一次試験のために行った対策がそのまま活きることを感じました。
また、国家試験対策のためのダブルスクールはしませんでした。

1-A 一次試験対策

時期 / 科目	教養科目	専門科目
対策開始 9 月頃 平均 勉強時間 2 時間	歴史・地理など 範囲の特に広い分野における暗記 ex『日本史の点数が面白いほどとれる本』	経済のマクロ・ミクロの基礎の部分 ex『マンキューマクロ経済学入門』 『ミクロ経済学の力』
日頃の対策 平均 勉強時間 2 時間	上記の対策に加え 数的処理・判断推理分野にも ex『畑中敦子の数的処理トレーニング』	上記のミクロ・マクロ初級以外にも 統計学・国際経済学など ex『スーパー過去問ゼミ』
直前期 平均 勉強時間 5 時間	時事問題・理系分野にも ex『速攻の時事』 ex『スーパー過去問ゼミ』	財政学・憲法など ex『速攻の時事』で予算など暗記 ex『スーパー過去問ゼミ』

1-B 二次試験対策

時期 / 科目	専門科目	政策論文
対策開始 ９月頃 平均 勉強時間 ２時間	経済のマクロ・ミクロの基礎の部分 ex『マンキューマクロ経済学入門』 『ミクロ経済学の力』	なし
日頃の対策 平均 勉強時間 ４時間	上記のミクロ・マクロ初級以外にも 公共経済学など ex『公共経済学入門』（土居丈朗）	なし
直前期 平均 勉強時間 ５時間	本格的な記述対策 ex『経済学入門塾　論文マスター』	過去問から練習

2. 人事院面接

会場: 埼玉　　面接官の構成: 3 人

人事院面接に向けた準備

ES を書いて友達に模擬面接をしてもらいました。
良かった点としては、遠慮なく色々と細かくいってくれることでした。
ただ１つポイントとして、なるべく色々な人に見てもらい、違った視点からのアドバイスをもらうことが大切だと思いました。

当日の面接の雰囲気

人事院面接の本番では、穏やかな雰囲気のもと ES に書いてあることに沿ってひたすら細かく質問を受けた印象です。例えば ES でゼミのプレゼンについて書いたならば、そのプレゼンのテーマ、そのテーマを扱った理由、そのプレゼンの結論などまでしっかりと説明しました。ですから、自分の ES に書いた内容の細かなところまで振り返りをすることが最大の対策になると思います。

Y.M の試験・人事院面接対策

試験区分: 大卒程度経済
所属する大学・大学院の専攻と区分との関連性の有無: 有
席次: 40～50 位

1. 筆記試験
３月頃、勉強を開始しました。春休みだったので１日５時間くらいしていました。直前期の４月は授業がはじまったので放課後に３時間程度勉強していました。予備校には通わず、公務員用の参考書と過去問を買って解いていました。

1-A 一次試験対策

時期 / 科目	教養科目	専門科目
対策開始 ３月頃 平均 勉強時間 ５時間	過去問を見て、現代文 OK・英語やばい・数的 OK・時事と教養範囲広いから捨てる、と現状をとりあえず把握しました。	公務員試験用の参考書を使って対策しました。選択科目は国際経済学・経営学・憲法を選択しました。統計学・計量経済学はコスパいいと思います。
日頃の対策 平均 勉強時間 ５時間	受験の時に使った英単語帳を使ってとりあえず単語を集中的に復習しました。そのあとは１日１題過去問を解くようにしました。	参考書の問題をひたすら解いていました。試験までの日数を科目数（ミクロ・マクロ・財政学・憲法・経営学）で割って１科目に使える時間を出して、１科目ずつ集中的に勉強しました。
直前期 平均 勉強時間 ３時間	授業がはじまったため、あまり時間がとれませんでした。 本番に解いていて、思ったよりも時間が足らないな、と感じたので一度時間を計って過去問を解いた方がいいと思いました。	過去問を買ってひたすら解いていました。経済事情・財政学は経済財政白書等をざっくり見るだけでも点につながるのでオススメです。

1-B 二次試験対策

時期 / 科目	専門科目	政策論文
対策開始 ５月頃 平均 勉強時間 ３時間	１次試験が終わってから対策をはじめました。選択科目は財政学・経済政策を選択しました。試験委員の先生を調べて、その先生が書いている本を読みました。	普通にやれば大丈夫と聞いて、特に対策はいいや、という感じでした。
日頃の対策 平均 勉強時間 ３時間	５年分くらいの過去問を解くのと、試験委員の先生の本を読んでいました。１次試験と違って筆記なので、過程を文章におこす練習もしました。	特になし。
直前期 平均 勉強時間 ３時間	上と同じです。解くのに必要な知識水準は１次試験とほとんど変わらないので、２次試験の対策は１次試験が終わってからでいいと個人的には思います。	友人と１回過去問を使って、時間を計って解きました。 余裕こいて本番に臨み、足切りちょうどの点数でした・・・

2. 人事院面接

会場: 埼玉　　**面接官の構成:** ３人（人事院１人省庁人事２人）

人事院面接に向けた準備

いわゆる頑張ったことや、長所などの面接定番質問に対する返答を準備しました。国家公務員一本でしたが大学の友人と一緒に考えて、こうした方がいい、みたいなやりとりをしていました。大学での経験をどうやって公務員の仕事に生かすのかについてや、それぞれの質問についてもっと深く考えていた方が良かったと感じました

当日の面接の雰囲気

基本的にゆるい雰囲気でした。事前に書く面接シートに沿っての質問だけでした（志望動機は特に聞かれなかった）。学業・課外活動・趣味等で頑張ったことについてそれぞれ 5,6 分程度のざっくりしたことを聞かれました。アピールしたことをどのように仕事に生かせるかを求めているのでは、と感じました。明瞭な声で、聞かれたことに簡潔に答えれば人事院面接は特に問題ないと思います。

R.U の官庁訪問記

第１クールのスケジュール

1 日目:　環境省　2 日目:　文部科学省　3 日目:　なし

スケジュール決定の背景

環境事業に携わりたいと考えていたので、環境省に初日に訪問することは決まっていました。環境事業以外だと、私は教育関係にも興味を抱いていたので二日目は文部科学省へ。三日目にどこを訪問するかで悩んでいましたが、初日の環境省の評価を受け、休憩に充てることにしました。第２クールでは、環境省から高い評価を受けていたため初日は環境省、またそこで良い評価をもらえたため、２日目と３日目は休むことに。第３クール以降も同様、環境省のみの訪問となりました。

官庁訪問前に準備したこと

ホームページに上がっている官庁訪問プロセスを読んで、一日の流れをシミュレートするなどして準備していました。その際、ネット上の官庁訪問体験記は非常に参考になりましたね。政策等については白書をざっくり読んだりしていました。内容を理解できていたかについては怪しいところです（苦笑）

環境省に入省しようと考えた決め手

第一志望省が環境省でしたので、大きな決め手のようなものはありません。

強いて挙げるならば、官庁訪問を通し、環境省で働く方々が人当たりの良く優しい人たちだと知ることができたことと、他省庁からは良い評価をもらえなかったため、環境省だけに集中することができたことですかね。

あくまで結果論ですが(笑)

個人的に自分のどの部分が評価されて、内々定という結果に至ったと思うか

一つは発想力が評価されたのかなと考えています。

私はもとは理系ですが、文系区分で受験し訪問しているので、理系的な発想・考え方が面接官の目に留まったと思っています。また、私の弱みである緊張への弱さを大目に見てもらえたことも、この結果の要因だと捉えています。この点は自分でもまだ改善しなければならない課題ですね。

官庁訪問の反省点

待合室で待機している間、他の人たちともっとお話ししていれば、より官庁訪問を上手く過ごすことができたのではないかと反省しています。

待合室にいる間はもちろん暇ではあるのですが、いつ面接に呼ばれるかわからないため、周囲の人たちと話せる余裕がなかったんだと思います。

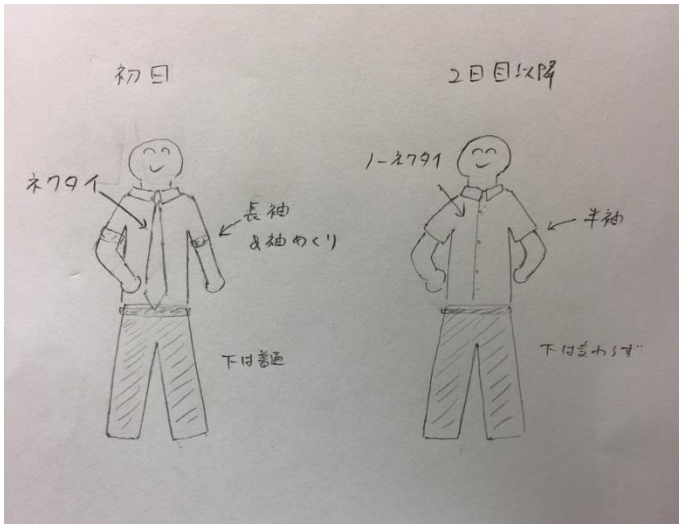
自分の中に余裕を作り出すためのアイテムを準備しておけば、改善できたかもしれません。

控室の印象と、控室での過ごし方・土日の過ごし方

環境省の控室にはジャズ系の音楽が流れており、どこかの喫茶店のような印象を受けました。待機している間、落ち着くことができたのは音楽のおかげかもしれません。体を休める必要もあったため、大胆に仮眠をとったりもしました。それでも暇な時間が多く、時間を潰すために新聞を準備したりもしました。

官庁訪問中の服装・持ち物

ホームページにクールビズで来てほしいと書いてあったため、初日はジャケットを着ず、長袖のシャツにネクタイをして訪問しました。半袖ノーネクタイの人たちが多かったので２日目以降は私も半袖で訪問することにしました。持ち物は、筆記用具・ノート・タオル・飲み物・新聞くらいですね。就活基本セットに暇つぶしアイテムといったところでしょうか。



官庁訪問の感想、来年官庁訪問をする方へ

今思えば、いろいろな省庁の、様々な部署で働く人たちの話を聞ける、非常に貴重な機会だったと思います。その意味ではどこの省庁にも訪問しなかった日はもったいなかったような気がします。しかし体力的にも余裕がなかった状況を振り返ると、それも仕方のなかったことではと考え、反省し辛い点です。
ですので、来年官庁訪問する方へは、官庁訪問で余裕をもっていろんな話を聞いてほしいと思うと同時に、体力的にも無理をしないような訪問にしていただきたいと思っています。最後に、みなさんと共に働けることを心よりお待ちしております。大変でしょうが、官庁訪問頑張ってください！！

T.K の官庁訪問記

第 1 クールのスケジュール

1 日目:環境省　2 日目:民間企業（農林水産省の予定でした）3 日目:国土交通省

スケジュール決定の背景

「環境に深く関わることのできる政策を実現している省庁かどうか」

50 年後 100 年後の人からも評価されるような仕事に携わりたいと考えていたこと、日本と世界の自然環境保護に貢献できることを軸に省庁を決めました。

官庁訪問前に準備したこと

民間企業の面接を経験することが実質的に対策になっていました。特に総合商社のインターン選考や採用面接で面接官が尋ねてくる質問は、日本や世界という舞台で自分のやりたいことが社会にどのような影響を与えるのか、また実現のためにどのような調整をすればよいのか等、国家公務員にも共通する「広い視野」を意識させられるものが多く、非常によい練習となりました。

環境省に入省しようと考えた決め手

一番の決め手は、原課面接で環境影響評価を担当されている方のお話を聞き、その場で私が提案した政策が、実際に環境省で検討中のアイデアと偶然一致したことです。恥ずかしながら環境影響評価に関しては一般常識程度の知識しかなく臨んだ面接でした。しかし、職員の方の話が大変分かりやすく、そのお話を基に自分なりのアイデアを出すことができ、かつそれが実際に環境省の実施しようとしている政策であることを知りました。この面接を通じ、環境省で活躍できると自信を持てたことが決め手になりました。

個人的に自分のどの部分が評価されて、内々定という結果に至ったと思うか

環境政策に加えて経済や地方振興等、多様な分野の社会事象に興味関心を持つことのできる広い視野を評価されたのだと思います。民間企業就活での企業研究を通じ、環境系のプロジェクトにフィンテックや AI を活用している事業等を知り、環境政策と広く社会全体の「流れ」を結びつけるヒントを得ていたことがこの評価点の養成につながったのだと思います。

官庁訪問の反省点

環境省の志望動機をもう少しスマートに伝えることができるように自分の想いをまとめてくるべきだったと思います。なぜ環境省なのか、環境省で実際に何を実現したいか等、自分の心の中に無数の熱い想いがある一方で、これらを 1 分程度で伝えようと思うと自分でも判然としない志望動機になってしまっていました。ですので、（本当に当たり前なことですが）来年官庁訪問される方には自分自身の心の内としっかり向き合い、どの想いを一番伝えたいか、どのように相手に理解してもらうかを考え抜いて欲しいです。

控室の印象と、控室での過ごし方・土日の過ごし方

全省庁の中で環境省の控室の和気あいあい度はトップクラスでした笑。同席の学生と環境政策や原課面接で聞いた話の共有をはじめ、日常生活や地元の話をして、待ち時間を過ごしました。官庁訪問中の土日は、官庁訪問のことを忘れ、友人と食事に行ったり、大学のジムで汗を流したり、気分転換をしました。

官庁訪問中の服装・持ち物

環境省の秘書課の方の言葉を文字通り受け取って、堂々のクールビズです笑。体力には自信がありましたが、丸 1 日かけて行われる官庁訪問では、栄養ドリンクが不可欠でした。また、時期も時期ですので汗をかくこともあり、ハンカチ等は必ず用意したほうがいいです。

官庁訪問の感想、来年官庁訪問をする方へ

私は、実は国家総合職として中央省庁に入省することを諦めていました。以前志望していた省庁の内定を目指して努力したにも関わらず、内定という結果に結びつかなかったからです。ですので、私は民間企業就職を目指していました。その中で中央省庁を目指していた時には、見向きもしなかったような企業の説明会等に参加し、「ここで働きたい」と思うような企業に沢山出会いました。そうした出会いが私を環境省の内定へと導いてくれたのだと思います。ぜひ皆さんもやる前から無駄だとは思わずに、色々なことに挑戦し、そこから社会に対する知見を磨いて、官庁訪問に挑戦して欲しいなと思います。万事塞翁が馬。

T.T の官庁訪問記

第 1 クールのスケジュール

1 日目:　外務省　2 日目:　防衛省　3 日目:　環境省

スケジュール決定の背景

私は、3 つの軸をもとに官庁訪問で回る省庁を決めていました。第 1 に、日本社会の価値を守る役割を持つことです。外国での生活経験がありつつも、日本で過ごした時間が長かった私は、日本の価値について意識することが多く、もし日本に価値があるなら、それを守る仕事がしたいと思っていました。第 2 に、国際社会とかかわりが強いことです。海外留学経験から、世界との関わりをもって仕事をしたいと思っていました。第 3 に、世代を越えた価値のある仕事ができることです。小さいころから持っていた、自分の生き方の目標でした。これらの軸をもとに、3 つの省に決定しました。

官庁訪問前に準備したこと

情報収集は、主に大学院同期や先輩から話を聞いていました。また、官庁訪問体験談を読んで、イメージを膨らませてもいました。

政策については、白書・新聞・書籍などの資料を読んだことに加えて、大学院の演習、友達との議論などを通じて知識のインプット・アウトプットを練習していました。

環境省に入省しようと考えた決め手

原課訪問をきっかけに決めました。官庁訪問を始めた当初は国家安全保障への気持ちが強かったです。しかし原課訪問で地球温暖化や福島原発といった、生活に直結し、かつ将来にわたって問題が残る課題に信念をもって立ち向かう職員の方々に会い、それを堂々と話してくれたことで、環境省の仕事は、一生かけて取り組む価値のあるものだと思い、入省しようと思いました。

個人的に自分のどの部分が評価されて、内々定という結果に至ったと思うか

誠実なところが評価されていたのかもしれないです。

着飾らないこと、用意した回答を安易に話さないようにしました(失敗経験より)

知らないことは正直に知らないといい、かつ好奇心をもって話を聞くようにしました(自然とそうなった)

官庁訪問の反省点

事前にもっと説明会に行くべきでした。政策や雰囲気を知ることができたのはもちろん、一緒に受験する知り合いが増えていたと思います。

写真、ペン、ノート、など、一通り必要になりそうなものを準備しておいたほうがよかったです。特に、菓子パン的なものは用意していくことをお勧めします。

控室の印象と、控室での過ごし方・土日の過ごし方
どの省でもお茶・ジュースのサービスはあると思いますが、やかんで麦茶を入れているのは環境省だけだと思います。おいしかったです。
控室では、基本的に周りの人と話していました。
土日は面接準備に充てていました。正直遊んだほうがいいかもしれません。

官庁訪問中の服装・持ち物
ボタンダウンの半袖ワイシャツを着ていきました。
夏なのでネクタイはつけていません。
持ち物としては、ノート・文庫本・ミントガム・目薬（コンタクトレンズの方には必須だと思います）・軽食をもっていっていました。あまり詰め込まないほうがいいとは思います。

官庁訪問の感想、来年官庁訪問をする方へ
準備は大切です。説明会はなるべくたくさんかつ広い視野で回ることが大切だと思います。そのうえで、面接に向けてしっかり自己分析をすることが重要だと思います。何を聞かれても答えられるようにするが、それを自分の言葉で話せるようにすることを目標にするといいと思います。これができれば、きっとうまくいくと思います。また、官庁訪問は長いプロセスでつらいことも多いかもしれませんが、同じように受験をしに来ている周りの人と、なるべく仲良くなるといいと思います。

M.H の官庁訪問記

第 1 クールのスケジュール

1 日目:　環境省　2 日目:　厚労省　3 日目:　国交省

スケジュール決定の背景

環境省以外興味がなかったため、第 1 クール 2 日目と 3 日目は訪問前日に決めました。厚労省は説明会に来ていた人事の方と雰囲気が合いそうだと思ったため、国交省は環境省の仕事と関わりが強いと思ったため、訪問しました。

官庁訪問前に準備したこと

志望動機を書いた後、自分がその仕事に興味を持ったきっかけとなる原体験まで遡り、今度はそこから筋道を立てて志望動機まで説明できるかという練習を繰り返しました。頻繁に聞かれる割に、言葉で説明しようとすると案外難しいからです。政策については自分がやりたいと思ったことを既にやっているか調べ、やっていないとわかったらそれ以上は調べませんでした。

環境省に入省しようと考えた決め手

仕事内容のおもしろさはもちろんですが、決め手はやはり環境省の皆さんの人柄とお仕事に対する熱意でした。省内の雰囲気は省ごとに大きく異なりますが、その中でも環境省では特に、穏やかさと冷静さを感じ、自分と雰囲気が合っていたのか、どの職員の方とお話をしても居心地よく感じました。また、職員の方々は皆使命感を持ってお仕事をされており、この方々と一緒に働けるなら、自分もずっと熱い心をもってお仕事ができそうだと思いました。

個人的に自分のどの部分が評価されて、内々定という結果に至ったと思うか

私は人とお話しするのが好きで、明るく楽しそうに人と話し、すぐに打ち解けられる点が評価されたのではないかと思っています。お仕事では初対面の方と接する機会も多く、人当たりの良さは武器にもなると思うので。この点をアピールできるよう面接中は面接官の方とお友達になるぞ、という意識で積極的に質問をしたり、訪問カードに笑い話に繋げられる内容を記入したりしました。

官庁訪問の反省点

せっかく様々なお仕事に携わる職員の方にお話を聞けるので、もっと政策について詳しく知っていたらよかったと思いました。知識の深さでは職員さんに敵うはずもないので、そこを準備する必要はないと思います。しかし自分の興味のなかった分野の政策を名前だけでも知っておけば、話のきっかけになり、もっと話が盛り上がったかなと思います。それから連日帰りは遅くなり、想像以上に疲れるため、訪問者カードは訪問前日に書くべきではないと思いました。

控室の印象と、控室での過ごし方・土日の過ごし方

環境省の控え室は一番居心地がよかったです。緊張感はありますが、全体として和やかな雰囲気で、殺伐とした空気はなく、同じテーブルの人同士が支えあっている感じがしました。私は控え室で、面接での会話内容や新たな自分の考えを忘れないようメモしたり、同じテーブルの人と談笑したりして過ごしました。

官庁訪問中の服装・持ち物

タイトめのスカート、つま先の尖ったハイヒール、7部丈のワイシャツ、髪はお団子、上着はなし。ハイヒールと緊張のせいで毎日足が棒になっていたので、足専用の湿布薬は手放せませんでした。

官庁訪問の感想、来年官庁訪問をする方へ

今年の官庁訪問は私にとって 2 回目のものでした。昨年からずっと国家公務員として働きたい気持ちを持っていたためか、今年は去年よりずっと緊張し、それが体力的にも大きな負担になりました。精神的・肉体的に追い詰められる 2 週間ですが、最後まで驕らず、気を抜かずに臨むことが大事だと思います。来年官庁訪問を考えている皆さんには、是非とも官庁訪問までにしっかり準備をし、体力をつけてもらって、万全の態勢で臨んでほしいです。

A.H の官庁訪問記

第 1 クールのスケジュール
1 日目:　厚生労働省　2 日目:　環境省　3 日目:　なし

スケジュール決定の背景
厚労省については、労働や福祉関係で深刻な問題が身近にあったため、それらに関わりたいと思い初日にまわりました。環境省は、もともと関心があり、大学や院での専攻にも沿っていたのでかなり前からまわる事を決めていました。順番については、厚労省は説明会に一度も参加していなかったため、意欲不足と思われないよう初日に訪問させてもらいました。

官庁訪問前に準備したこと
官庁訪問プロセスについては、体験記のブログを読んで、わからない部分は当日の待ち時間に周りの子に聞きました(笑)。政策知識については、関心のある分野について、HP、新聞、白書を読んで、思いついた案や疑問点などを各省ごとに 2, 30 個箇条書きにしておきました。環境省については、説明会で政策について職員の方々に質問していたので、その回答についてのメモを読み直したり、環境法の参考書を読み直しました。

環境省に入省しようと考えた決め手
一番の決め手は、職員の方々が魅力的で、一緒に働かせて欲しいと強く思ったことです。面接していただく中で、職員の方の知識量や熱意に圧倒される場面が多く、この中に入れたら自分も人間的に大きく成長できるのではと感じました。また、どの局の仕事にも関心を持てること、早い段階から評価の手ごたえを強く得られたこと等も大きかったです。両省とも人事の方々が親身に相談に乗って下さり、冷静に納得いく判断をできたと思います。

個人的に自分のどの部分が評価されて、内々定という結果に至ったと思うか
人事の方には、安定感だとうかがいました。常にリラックスして臨めたことからそういう評価につながったのかなと思います。また、環境法を学んできたことと、体育会やゼミでの経験は、どの面接でもある程度評価していただいたと感じました。自分で関心があると言った分野については、関連するニュースや法的問題を事前に調べたり考えて、本当に関心があることをアピールできるようにしていました。

官庁訪問の反省点

体力が持てば、三日目も回ればよかったと思います。省庁ごとに雰囲気も面接回数も違いますが、職員の方々が時間を割いて業務を説明してくれたり自分の意見について議論してもらえるというのは本当に贅沢な時間だと思います。他の訪問者の方とも、もっと色々話せばよかったです。バックグラウンドが面白い人が多かったので、連絡先などを交換して友達になれたら良かったなと後悔しています。

控室の印象と、控室での過ごし方・土日の過ごし方

静かでリラックスした雰囲気でした。おそらく他省庁より面接回数が多いので、みんなでお喋りというより、ゆっくり休憩したりメモをまとめている人が多かったように思います。私は前の面接のまとめや次の対策を練ったり、隣の子と情報交換していました。晩御飯に何人かで上の中華屋さんに弁当を買いに行って、志望動機や関心分野について話せたのはとても楽しかったです。

官庁訪問中の服装・持ち物

ジャケットは初日からなしで全く問題ありませんでした。省庁パンフレットは待合室にあったので、自分で持っていかなくても良かったかなと思います。
B5 サイズのリング状のメモ帳を持って行ったのですが、面接中にメモをとりやすくて便利でした。

官庁訪問の感想、来年官庁訪問をする方へ

面接を通して毎日関心分野への理解がバンバン更新されて、とても楽しい時間でした。ただ、官庁訪問中に急性胃腸炎になってしまい、高熱のなか訪問してもの凄くしんどかったので、体調管理は大事だと痛感しました。
あまり偉そうなことは言えないですが、以前人事の方にいただいたアドバイスで自分もその通りだと思ったのは、何かしら「自信」が垣間見えることが大事ということです。経験からでも学問分野についてでも良いので、自分なりにこれはやったと誇れるものがあると、自然とリラックスできるし、余裕も生まれて職員の方とも良いコミュニケーションが取れると思います。私も既卒で司法浪人もしていましたが、これまで自分なりに一生懸命取り組んできたことを、職員の方々がしっかり見てくれたように思います。自信をもって、頑張ってください。

T.M の官庁訪問記

第１クールのスケジュール

1 日目:　環境省　2 日目:　経済産業省　3 日目:　なし

スケジュール決定の背景

自分の軸として『環境を通して経済をよくすること』を掲げていたので、それが達成できる可能性のある上記２省庁への訪問を決めました。

３日目の訪問は、自分の軸に合致しそうな省庁が他に見当たらなかったためしませんでした。

官庁訪問前に準備したこと

環境に興味を持った原体験を、自分史を作ったうえでブラッシュアップしました。また、自分の興味ある環境分野とその分野における環境省の政策、そしてその政策に関する疑問点などを自分の中で整理しました。

環境省に入省しようと考えた決め手

環境省に入省しようと決めたきっかけとしては２つあります。１つ目は環境省の職員方の人柄です。官庁訪問を通じて、環境省の方々の真面目さ・明るさ・人の良さを感じ、この方々と一緒に働きたいと思いました。２つ目としては、環境省の方々の抱く熱い思いです。官庁訪問中の原課面接などを通じて、環境や経済をより良くしようという環境省の方々の熱い思いをひしひしと感じ、自分もこの組織の一員となりたいと強く感じました。

個人的に自分のどの部分が評価されて、内々定という結果に至ったと思うか

自分は環境経済学の基礎が出来ていたからこそこの結果に至ったと思いました。自分は常に『環境と経済を両方とも良くする』ことにスタンスを置き、環境経済学の知識を用いて面接中に逆質問を投げかけることなどを意識しました。

官庁訪問の反省点

官庁訪問の反省点として、環境問題について気になっている事項を積極的に質問できなかったことです。官庁訪問は面接ではありますが、ただそれだけでなく、知識・経験の少ない学生がスペシャリストである環境省職員に対して遠慮なく質問や政策論をぶつけられる貴重な機会でもあります。この貴重な機会に、積極的に多くの質問を行い、自分の環境問題に対する洞察をもっと深めればよかったと反省をしております。

控室の印象と、控室での過ごし方・土日の過ごし方

環境省の控室の印象として、堅い雰囲気はなく、同じ卓の人と自分のバックグラウンドなどを和気藹々と話していた感じでした。

控室では、自分は主に環境問題に対する環境省の政策やそれに対する質問などのブラッシュアップを行っていました。土日も同様に過ごし、英気を養うために早めの睡眠を心がけました

官庁訪問中の服装・持ち物

クールビズにより、半袖の白シャツに薄めのズボンを着用しました。

持ち物としては、腕時計を付けハンカチ・ティッシュを持つなど、最低限のエチケットを心がけておけば特別な持ち物は必要ないという印象です。

官庁訪問の感想、来年官庁訪問をする方へ

環境経済学では、様々な問題に対して『短期的視野だけでなくいかに長期的視野で考えられるか』が重要になってきます。この視点は官庁訪問においても重要になってくると思います。

まずは自分の人生において達成したいことを思い浮かべてください。その目標の達成のためには国家公務員・環境省へ入省することは本当に必要なことでしょうか。とりあえず入省することが第一目標になっていませんか。長期的視野に立ったうえでも入省したいという気持ちが自分の中にあれば、面接官にもその熱い思いがしっかり伝わると思います。

自分の人生における目標の達成に向け、ぜひ頑張ってください。

Y.M の官庁訪問記

第１クールのスケジュール

1 日目:　環境省　2 日目:　財務省　3 日目:　総務省（ICT）

スケジュール決定の背景

一つの専門分野をもとに、あらゆる課題に取り組むことができるという軸で選びました。振り返ると説明会に行き、第一印象でこれ面白そう！と思ったところに決めたような気がします。どの省庁の仕事も欠かせないもので魅力的だったので、その中でこれだけは自分がやりたいって思ったところに訪問しました。

官庁訪問前に準備したこと

情報収集しようとしましたが、特に入手できませんでした。ホームページ・白書等で政策知識を身につけようとも思いましたが、座談会で専門知識は別に求めていないと聞いたことから、説明会で身につけた知識程度で本番は臨みました。志望動機や学生時代頑張ったことなど就活定番質問？みたいなのをまとめておいたのは、官庁訪問中しておいてよかったと感じました。

環境省に入省しようと考えた決め手

環境から経済を転換させる、という話をしてくださった職員の方が決め手です。カーボンプライシング等によって、炭素生産性・労働生産性を上げることができ、高付加価値産業への転換など社会構造の変化を起こすことができる、という環境の関わる分野の幅広さを改めて実感することができ、とても魅力的に感じました。

個人的に自分のどの部分が評価されて、内々定という結果に至ったと思うか

バランス感覚が評価されているのかなと感じました。環境に対してだけでなく、様々な分野に関心を持っていて、広い視野を持って環境に取り組みたいと伝えたことがよかったのでは、と振り返ると思いました。また、わからないことは素直にわからないと質問したのがよかったのかもしれないです。

官庁訪問の反省点

途中お腹が空くことが多かったので、チョコとかウィダーとかの軽食を持参するとよかったです。

他には、訪問前に自分なりに政策について調べて、疑問に思った点や官庁訪問を通して確認したい１つの軸のようなものを決めた方が良かったのかもしれません。ですが、あまり準備できず詳しくなかったからこそ、わからないことだらけで、その場その場で、思ったことを素直に質問することができたので、逆にそっちの方がよかったのでは、とも思っています。

控室の印象と、控室での過ごし方・土日の過ごし方

とても明るい環境で過ごしやすかったです。テーブルが 3 つに分かれていて、どのテーブルも和気藹々としていて、官庁訪問での真面目な話だけでなく雑談も多く、良い雰囲気でした。基本的に近くの人と雑談しつつ、原課面接のあとはノートに話をまとめたり、疲れたときはボケーっとしてました。

官庁訪問中の服装・持ち物

半袖のシャツに下は就活用の普通のズボン、靴も就活用の無難 of 無難の黒靴です。腕時計は、なしスタイルです。
控室が暑くて汗かくので、汗拭きシートがあるとスッキリしてオススメです。

官庁訪問の感想、来年官庁訪問をする方へ

連日夜遅くになることから疲れも後半たまりましたが、全体的にとても楽しかった、というのが感想です。職員の方の話が興味深いのはもちろん、他の学生がこういうことを考えているんだと知ることができるのが良い経験になりました。環境省の仕事は環境保全のような保守的な仕事が多いイメージがあるかもしれませんが、環境×〇〇のように色々な分野と関わったり、環境と経済を組み合わせるといった、攻め？の側面もあるので、環境にあまり関心のない方でも説明会で一度ぜひ話を聞いてほしいです！官庁訪問ではあまりカッコつけずに素の姿で臨むのが個人的にオススメです！

環境省官庁訪問のある１日

回数	面接先	所要時間	概略
1	入口面接 （人事）	約 15 分	簡単な志望動機と関心分野について
2	原課面接 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課	約 60 分	廃棄物行政について
3	原課面接 地球環境局国際連携課	約 60 分	パリ協定などの国際交渉について
4	原課面接 大臣官房総務課	約 60 分	除染作業について
5	秘書課面接 （人事）	約 40 分	志望動機と大学で取り組んだことや研究について
6	出口面接 （人事）	約 5 分	1 日目の振り返りと評価について

入り口面接では炭素税や環境金融などについての話を聞きたいと伝えました。第１クールではその分野を担当する職員の方ではなく、それ以外の分野の方が中心で、第２クールでは希望していた分野の方の話を多く聞くことができました。

第１クールで、それまでにあまり知識のなかった分野の話を聞くことができ、環境行政に対する幅広い知識を身につけることができました。そして、環境に対する視野が広がることで、それ以後の官庁訪問にも生きてきました。職員の方は意見をしっかりと聞いてそれに対して改善点を教えてくれるなど、非常に風通しの良さを感じました。

原課面接では、職員の方の話をひたすら聞く流れ・議論をする流れ・学生からどんどん質問をしていく流れ、など他の学生に聞いても様々なスタイルがありました。こういう流れだったから良い、こうだったからダメなどはないので、「気にせずに自分の聞きたいことを聞きにいく」というスタンスで臨むのがいいと思います。

入口面接含め秘書課面接は、ガチガチの面接ではなく雑談に近いような雰囲気なので、肩肘張らずに臨む方がいいと思います。

3.Special Talk

率直に
自由に

内定者トークセッション

TK：それでは、内定者によるトークセッションを始めます。
一同：よろしくお願いします。
TK：このコーナーでは、内定者が内定を得るまで不安に感じていたウワサについて、内定者の声の編集メンバーがざっくばらんに対談します。官庁訪問に関する情報は限られている分、都市伝説的なウワサが絶えないですよね。
ですので、このコーナーを通じて、これから官庁訪問する人の不安を解決出来たらと思います。

―官庁訪問前の説明会について―
TK：皆は、環境省の説明会には参加していたの？
YM：僕は 5 回くらい参加していたかな。説明会を通じて、「この人と一緒に働きたい」と思えるような職員さんと出会うことができたことがきっかけで環境省を目指したよ。
MH：そうなんだ！具体的に職員さんのどういう所に魅力を感じたの？
YM：自分の担当している政策に関して熱い思いを持って語っていたんだけど、それでいて、その価値観を押し付けるのではなくて柔軟に社会全体を俯瞰しているようなバランスのとれた職員さんで、僕もこんな職員さんになりたいと思ったね。あとは雰囲気かな！
一同：雰囲気ね（笑）
YM：これから環境省を目指す人にとっては、非常に分かりづらい要素ではあるけど、やっぱり直感的に環境省で働いている職員さんと合うか合わないかを説明会でぜひ感じ取ってほしいな。
TK：確かにそうだね。働いている人の雰囲気を知ることができるし、自分自身が仕事を通じて実現したいことを環境省で成し遂げることができるのかを確かめるためにも、ぜひ環境省を目指す人には説明会に参加してほしいね。
MH：でも、**内定者の U 君は官庁訪問までに一回も説明会に参加しなかったんだよね？**
TK：そうそう、民間企業の就職活動を並行していて、日程が合わなくて参加できなかったらしいけど、よく面接で話す内容を準備できたなあ。U 君は内定者による懇親会等にも参加してくれるので、興味のある方はどのように官庁訪問の準備をしたかを質問してみてくださいね（笑）
MH：U 君の例からも分かるけど、説明会で特別扱いされているような学生も見

ウワサ①
説明会には、毎回参加しなければならない！！
→環境省の仕事への理解度に合わせ、参加の是非を検討するといいと思います！
説明会では、環境省職員の仕事に対する熱い想いを得ることが出来ます。積極的に参加して頂けると嬉しいです！

受けられなかったし、**採用するか否かの判断は、官庁訪問での評価だけで決めているように感じたな。**

TK：職員さんの話だと、環境省では年次が若い職員でも責任の重い職務を任されたり、政策の提案をすることができたりするらしいから、そういう実力主義的な考え方が採用活動の姿勢にも表れているんだろうね。

―学歴、資格、席次について―

TK：環境省の採用活動を通じて、学歴を意識したことはあった？

YM、MH：いや、全く！

TK：だろうね（笑）内定者のプロフィールを読んでも分かるけど、今までの経歴がバラバラで本当に面白いよね！**世間一般で言われているような東京大学出身者でなければ内定できない、ということは全くないと思うね。**

YM：むしろ、官庁訪問で感じたことは、学歴よりも大学・大学院で研究してきた分野をその知識がない人でも分かりやすく説明できる能力の方が重要だったことだなあ。環境省の職員さんは、本当に興味関心の幅が広いから、馴染みのない研究分野でも色々質問してくれるよね。

TK：そうそう！僕も一度、原課面接の殆どの時間を使って、専攻分野の説明をしたことがあったよ。あとは、海外留学の経験もあったから留学先の国について詳しく質問されたこともあって、やはり学歴よりも、今までの経歴を通じて、その人が何を学んできたのかを重視している印象だったね。

MH：TK 君は、海外留学していたんだね！じゃあ英語はペラペラ？

TK：いやいや、ここで TOEIC のスコア言えないくらい英語ができないから、春の入省までにしっかり英語能力を向上させなきゃいけないね。

YM、MH：同じく（笑）

TK：パリ協定に代表されるように環境省の職務は、どんどん国際社会との関わり合いを深めていくから、環境省で活躍するためには英語能力が必須かもね。

MH：ただ、官庁訪問の段階では特に英語能力を確認されるようなことはなかったね。**官庁訪問で使う面接カードにも TOEIC、TOEFL、IELTS のような語学試験のスコアを書く欄はなかったものね。**だから、外国語能力は必須というわけではなくて、自分の個性、特性として捉えてもらえればいいんじゃないかな。

YM：そうだね。環境省には国内向けの政策もあれば、外国と関連する仕事もあるけど、例えば地球環境局で世界の温暖化対策を実現したいと考えている人であれば、面接のときに「実際にこれ位外国語能力があるので、国際交渉は任せてください」と伝えることができるのは説得的だもんね。

TK：面接カードといえば、試験の席次を書く欄もなかったね。

MH：官庁訪問中も全く聞かれなかったね。**内定者の統計をみても、特別席次**

ウワサ②

人事と仲良くなければ、内定はもらえない！！

→環境省の採用活動は、完全に官庁訪問の評価に基づいて行われていると感じました。官庁訪問では、自然体で自分の意見を面接官に素直に伝えることが重要だと思います！

ウワサ③

東大生でなければ、内定はもらえない！！

→非東大の内定者もたくさんいますよ！内定者プロフィールを読めば、一目瞭然ですね。環境省は、均一性よりもむしろ様々な背景を持つ職員が集まることによって生まれる多様性を大切にしていると思います。

ウワサ④

内定には、高い外国語能力が必須！！

→必須とまでは言えないと思います。ご自身の個性や環境省で実現したい政策に応じて、アピールポイントの一つとして捉えて頂ければ良いのではないでしょうか。

の高い人はいないから、やっぱり官庁訪問中の面接の評価で採用が決まるんだと思うな。

—官庁訪問の諸々のウワサにいて—

YM：官庁訪問は、皆楽しかった？（笑）

TK：今思えば楽しかったかな。今まさに選考されているときは、半端じゃない緊張感だったけどね。

MH：私は、環境省への訪問は 2 回目だったから、大体の流れは掴めていたけど、やっぱりあの 2 週間の身体的、精神的な負担は特別なものだよね。

TK：そうそう、僕も官庁訪問経験済みの状態での挑戦だったけど、やっぱり何度経験しても栄養ドリンクが手放せないくらい疲労が溜まっていたなあ。ところで、**2 回目の官庁訪問だとよく一回目よりも成長した姿を面接でアピールしないといけないと聞く**けど、MH さんは実際どうだったの？

MH：その通りだと思うよ。私の場合、去年の官庁訪問で内定を頂けなくて、再チャレンジしたわけだけど、去年からの 1 年でどれくらい成長したのかを面接で見られていた気がするな。

YM：実際にどうやって成長をアピールしたの？

MH：去年は、最後の最後で精神的に脆いところを面接官に見せてしまったから、歌舞伎町のコンビニエンスストアのアルバイトでメンタルを鍛えましたってアピールしてたの（笑）

YM、TK：（笑）

TK：実際にメンタルは鍛えられた？

MH：うん、精神的にタフになったからこそ、官庁訪問を無事乗り越えることができたと思うよ！

TK：僕も過去の官庁訪問で内定を頂く事ができなかったから、色々なことに挑戦してみたけど、MH さんのコンビ二でのバイト経験のように、官庁訪問とは一見関係ない様なことでも、そこから得た 1 つ 1 つの体験が自分の成長につながることは沢山あるよね。僕も民間企業の就職活動であったり、政党が企画する議員秘書インターンに参加したりして、行政以外の視点から日本社会を見る経験をしたことが視野を広げることにつながったんだと思うな。

YM：そういえば、MH さんは 2 回目の官庁訪問だったことに加えて、大学院を卒業して既卒の状態での挑戦でもあったよね。**既卒であることが官庁訪問中、影響した**ことはあった？

MH：うーん、大きな影響はなかったと思うな。でもやっぱり卒業した後の 1 年間をどのように活かしたのかということは聞かれたから、さっきも言った通り、自分なりにビジョンをもって自分自身を高めていく努力をすることが重要かな。

ウワサ⑤

試験の席次が高くなければ、内定をもらえない！！

→試験はあくまでスタートラインだったと思います。内定者に特別順位が高い/低い人がいないので断言はできませんが、官庁訪問でいかに実力を発揮するかが最も重要だと感じました。

ウワサ⑥

2 回目の官庁訪問は成功しない！！

→2 回目以降であっても、内定は頂けました。ただ、次回の官庁訪問までの 1 年間の使い方が鍵になってくると思います。なぜ内定を得られなかったのか、原因を見極めて、その部分を改善することが重要と考えます。

ウワサ⑦

既卒の人は在学中の人に比べて不利！！

→既卒の人であっても内定をいただいています。もっとも、ウワサ⑥同様、大学を卒業した後の時間をどのように活用したか説明できた方が良いと思います。

TK：MH さんがアルバイト以外に何か官庁訪問に向けて、努力していたことはあった？

MH：私は、**環境保護や環境技術を紹介する雑誌を読んで、環境省と他の企業・組織の取り組みについての知識を得ていた**ことくらいかな。TK 君、YM 君は何をしていたの？

TK：僕の場合は、環境技術を扱う民間企業の就職活動を並行していて、その企業の説明会や企業研究を通じて、知識を蓄えていたかな。

YM：僕は、真っ新な状態で環境省の職員の方のお話を聞きたいと思っていたから、特に政策に関する知識を詰め込んだりはしていなかったんだけど、官庁訪問中、その知識が何か役に立ったことはあった？

MH：私は、原課面接等で職員さんのお話を聞いているときに、相槌の中に自分の知っていた政策の知識を織り交ぜていたら、職員さんが「よく知っているね」って褒めてくれたよ。だから、自分の関心のある政策分野に関して前提知識があった方が環境省の政策に興味関心がある姿勢をよりアピールできるんじゃないかな。

TK：そうだよね。ただ、ここで注意しないといけないのは、政策に関する知識を蓄えることを目的化しない方がいいってことかな。直接その政策に携わっている職員さんの方が圧倒的に知識を持っているわけだし、官庁訪問中、分からないことがあれば、職員さんから詳細なお話を聞くこともできるからね。だから、例えば環境白書を隅々まで読み尽くすという作業は、必要ないかなって思うよ。

MH：うん、実際に内定者の中でも、自分の関心のある政策分野に関するページを読む位の人がほとんどだったもんね。

TK：でも、前提知識は全く必要ないかというと、また違うんだよね。僕の場合は、ある程度知識があって、職員さんの話について、色々仮定を組みながら質問することで話を膨らませることができたよ。例えば、職員さんから地方振興に再生可能エネルギーで貢献するという政策に関するお話を伺ったときは、各再生可能エネルギー施設の寿命や固定価格買い取り制度の前提知識を基に施設の更新時期に発生する廃棄物の問題や、電力会社の系統への接続許容量の逼迫が普及のボトルネックになるのではないかっていう想定の質問をしたら、議論が盛り上がって一時間近く、お話させてもらったりしたよ。

MH：つまり、政策に関する知識の必要性は、自分がどういう話の仕方が得意かによるのかな。真っ新な状態から話を膨らませることができる人は必要ないかもしれないし、TK 君みたいにある程度、前提知識があった方が話のリズムを掴み易い人もいるからね。

TK：そうだね。知識はあくまで、自分の熱意や能力を表すための手段であって、知識だけがあれば大丈夫ってわけではないって感覚かな。官庁訪問するならみ

ウワサ⑧

官庁訪問前に、環境白書を暗記しなければならない！！

→必須ではないと思います（笑）。自分の関心のある政策分野の情報を整理するだけで十分だと感じました。むしろ重要なのは、その情報をいかに活用し、自分の言葉で考えを述べることができるかであったと思います。

んなあれもこれも覚えなきゃいけないとは思わなくて大丈夫で、気になる政策があれば、ちょっと調べてみる位のスタンスで大丈夫だと思うよ。
YM：官庁訪問中の待合室でも学生同士、興味関心のある政策分野が同じだと話が盛り上がるもんね！
MH：そうそう！**環境省の待合室での雰囲気は、他の省庁の待合室の雰囲気と比べてもトップクラスで良い**から、他の政策に関する情報交換もよくしていたなあ。何気にその情報が原課面接で活きたりしたからありがたかった（笑）
YM：本当にね！色々なバックグランドを持った人がいて、和気藹々とした雰囲気だったね。
MH：環境省には、そういうほんわかした人が集まるのかな。
YM：なんとなく分かる気がする（笑）MH さんは、待合室での時間はどうやって過ごしてたの？
MH：そうだね、基本的に YM 君と一緒で、他の学生とおしゃべりしていたかな。あっ、控室に若手の職員さんが遊びに来てくれたけど、2人はお話した？
TK：僕は、ずっとお話していたよ。政策のお話から、雑談までして楽しかったな。
YM：あれって、評価に関係あるのかな？（笑）
MH：いや、ないでしょ！実際、官庁訪問では名札もつけなければ、自己紹介もしないでフランクにお話していたから、評価のつけようがないと思う。
YM：だよね（笑）、でも、官庁訪問中は些細なことが気にかかっちゃうよね。例えば、**第1クールの1日目に１番乗りで待合室に並ぶと評価が高い**とか。僕は、8 時 30 分以降に受付をしたけど、評価とは何の関係もなかったね。当たり前だけど…
TK：日程に関して言えば、やっぱり第 1 クールの 1 日目に訪問することは重要だと思う？
MH：うーん、難しいね。今年は第 1 クール 2 日目と 3 日目に訪問した人の中からも内定者が出ているから、1 日目じゃなきゃいけないことはないはず。環境省とマッチする人なら第 1 クールのどこかで訪問すればいいと思うよ。ただ、何日目に訪問するかとその人の志望度が関係するっていう認識が学生だけでなく省庁にとっても一般的だから、1 日目は自分が一番入りたい省庁へ訪問するのがいいんじゃないかな。
TK：そうだね。ここまで皆で話してきたみたいに、来年官庁訪問するみんなも色々悩んだり疑問に思うことがあると思うけど、僕は環境省では取り繕っても通用しないと感じたから、結局は普段通りの自然体で臨んでもらうのがいいと思うな。

ウワサ⑨
官庁訪問中は待合室でも気が抜けない。
→ぜひリラックスしてください。官庁訪問は長丁場の持久戦です。待合室では、リラックスして過ごして頂いて大丈夫です。おしゃべりしたり、仮眠をとったり、使い方は人それぞれです。

ウワサ⑩
第 1 クール 1 日目は、誰よりも先に並べ！！
→時間通りで大丈夫でした。受付の順番で評価が分かれるようなことがあるとは思えません。指定された時間に待合室へお越しください。

―来年官庁訪問する人へメッセージ―
最期に、来年官庁訪問をされる方へメッセージをお願いします。
MH：官庁訪問も他の就職活動と同様に、訪問者と省庁のマッチングを確かめ

るプロセスだと思います。ですので、説明会、インターン、OBOG 訪問等で自分と雰囲気の合う省庁・職員さんをぜひ見つけてみてくださいね。きっとそこが、あなたが活躍できる場所だと思います。

YM：僕は、「人の魅力は弱さ・ダサさを見せることから始まる」という言葉を贈りたいです。MH さんのいう通り官庁訪問は、候補者と省庁がお互い合うかどうかを確かめる機会であって、その場で作り込んだ自分を見せて、ミスマッチが起きてしまうのは、もったいないなと思います。ですので、緊張の中でも素の自分が出せるよう、自分自身がどういう人間で、何を環境省で実現したいのか、ビジョンを持って、官庁訪問に臨んでほしいと思います。

TK：僕は、厳しい官庁訪問を敢えて楽しんで欲しいなと思います。僕は国家公務員試験、官庁訪問の辛い時期、このプロセスは全て国家公務員として働く予行練習だと思っていました。国家公務員の仕事は 2、3 年ごとに異動し、その部署ごとに専門知識をつける必要があり、国会期間中はひたすら待ち続けることもあります。考えてみると公務員試験と官庁訪問は、これらの国家公務員の仕事を 100 分の1、1000 分の 1 に見えなくもないですよね。こういうふうに苦しい時期には日本の為に尽力する国家公務員になりきった気持ちで、このプロセスを楽しんで欲しいなと思います。

おわりに

この度は環境省平成 30 年度事務系内定者の声に目を通していただき本当にありがとうございました。環境省に対して少しでも理解が深まったでしょうか。本冊子が少しでも皆様のお役に立つことができたなら、そして、環境省への関心がさらに高まったなら幸いです。

読んでいただいたよう、私たち同期は、出身地もバラバラ、大学もバラバラ、専攻もバラバラとバックグラウンド豊かな人の集まりです。ですが、「次の世代のためにより良い環境を残したい」という熱い思いは皆共通して持っています。そして、内定直後の今だけでなく、今後ともこの思いを忘れることなく大切にし、全力で仕事に臨んでいきたいと考えています。

ところで、本冊子のコンセプトである「環境×○○」を感じていただけたでしょうか。私たちは「環境×地方創生・国際関係・経済・法律・ビジネス」と様々な「環境×○○」を描いています。そして、「より良い環境を残したい」という大きな軸のもと、幅広い視野を持って環境行政に取り組みたいと考えています。

このような思いに少しでも共感いただけたなら、そして、環境省に対して少しでも関心を持っていただけたなら、環境省ホームページにアクセスする、また、説明会等に足を運んでいただければ幸いです。

もし何かご質問等ありましたら、平成 30 年度環境省事務系内定者アドレス env.2018.jimu@gmail.com までご連絡ください。

なかなか連絡しづらいとは思いますが、本当にお気軽にご連絡いただいて結構ですので、よろしくお願いいたします。

それでは内定者一同、皆様にお会いできることを楽しみにしています。

平成 30 年度環境省総合職事務系内定者一同

【注意】
本冊子の記載事項は、内定者の私見に基づくものであり、
環境省の意向を反映したものではありません。

環境省

Ministry of the Environment

平成 30 年度環境省総合職事務系内定者